

実用新案登録願

昭和 56 年 8 月 24 日

特許庁長官 島田 馨 樹 殿

フリガナ
1. 考案の名称

エアゾール容器用オーバーキャップ

2. 考案者

フリガナ
住所 東京都東村山市秋津町 3-18-28

フリガナ
氏名 矢 沢 巖

3. 実用新案登録出願人

フリガナ
住所 東京都千代田区内幸町 1 丁目 3 番 1 号

フリガナ
氏名(名称) 東洋エアゾール工業株式会社

代表者 高 野 新 三 郎
(国籍)

4. 代理人 〒 105 電話 03(433)6466 番

住所 東京都港区新橋 3-12-10 馬場ビル

氏名 (6819) 弁理士 清水 修

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通
(3) 願書副本 1通



(2) 図面 1通
(4) 委任状 1通

550

実開 58-29952

56 124116

明 細 書

1. 考案の名称

エアゾール容器用オーバーキャップ

2. 実用新案登録請求の範囲

エアゾール容器の上端を被覆し下端をエアゾール容器に着脱自在に嵌合するキャップ本体を設け、このキャップ本体の上端に蓋体にて被覆された収納部を形成した事の特徴とするエアゾール容器用オーバーキャップ。

3. 考案の詳細な説明

本考案は上端面に収納部を形成したエアゾール容器用オーバーキャップに係るもので、エアゾール容器の内容物噴霧に使用するノズル、刷子等の付属部品又はエアゾール容器内容物の使用説明書等を収納し得るようにしたものであつて、以下その一実施例を図面に於て説明すれば、1はエアゾール容器で、内容物の収容部2上端には巻縮部3を介してマウンテンカップ4を嵌合固定している。5はこのマウンテンカップ4の中央部に形成した押釦で、マウンテンカップ4の中央部より突出し、

エアゾール容器 1 内の弁機構と連通したステム
 (図示せず) の上端に連通固定し、押圧によつて
 弁機構を開弁して内容物を噴射口 6 より噴射し得
 るよう構成している。7 はエアゾール容器 1 の上
 端を被覆し下端をエアゾール容器 1 の巻締部 3 に
 着脱自在に嵌合するキャップ本体で、上端面には
 肉薄の折曲可能部 8 を介して開閉自在に連結した
 蓋体 9 を形成している。11 はこの蓋体 9 により
 被覆されるキャップ本体 7 の上端に形成した収納
 部で、エアゾール容器 1 へのキャップ本体 7 取付
 状態に於て押釦 5 を押圧する事のない位置に底板
 12 を形成し、被収納物の収納を可能としている。
 而してこの被収納物は特定の物品に限定されるも
 のではなく、エアゾール容器 1 と関連をもつて使
 用されるものは全て対象と成り得る。一例に於て
 は被収納物として長尺状のノズル 13 を収納し、
 この長尺状ノズル 13 を噴射口 6 に接続し物品の
 奥の部分とか家具等、物品間の狭い部分に殺虫内
 容物等適宜の内容物を噴霧する場合に用いる。又
 他の一例に於ては刷子 14 付のノズル 15 を収納

し、このノズル15を噴射口6に接続し塗料、染髮剤等の塗布型内容物を刷子14にて目的部に塗布するものとする。又更に異なる他の一例に於ては収納部11の外周面への印刷、ラベル貼着のみでは内容物の説明が不十分な場合に説明書を収納しても良い。又更に異なる他の一例に於ては内容物使用後の残留ガスを排出するため、エアゾール容器1の穴空用具を収納しても良い。収納部11には要するにエアゾール容器1と関連をもつて使用されるものであれば良く、エアゾール容器1の使用効果を高める事が可能になるとともに通常では紛失し易いこれらの収納物を収納部11で確実に収納保存する事ができるものである。尚図面中16は蓋体9の開閉時に用いる指掛穴で、蓋体9の一端に半円状にて開口している。又17は蓋体9の収納部11側に突出した係合突片で、収納部11の内周面に圧接し蓋体9の収納部11への係合を確実とするものである。

4. 図面の簡単な説明

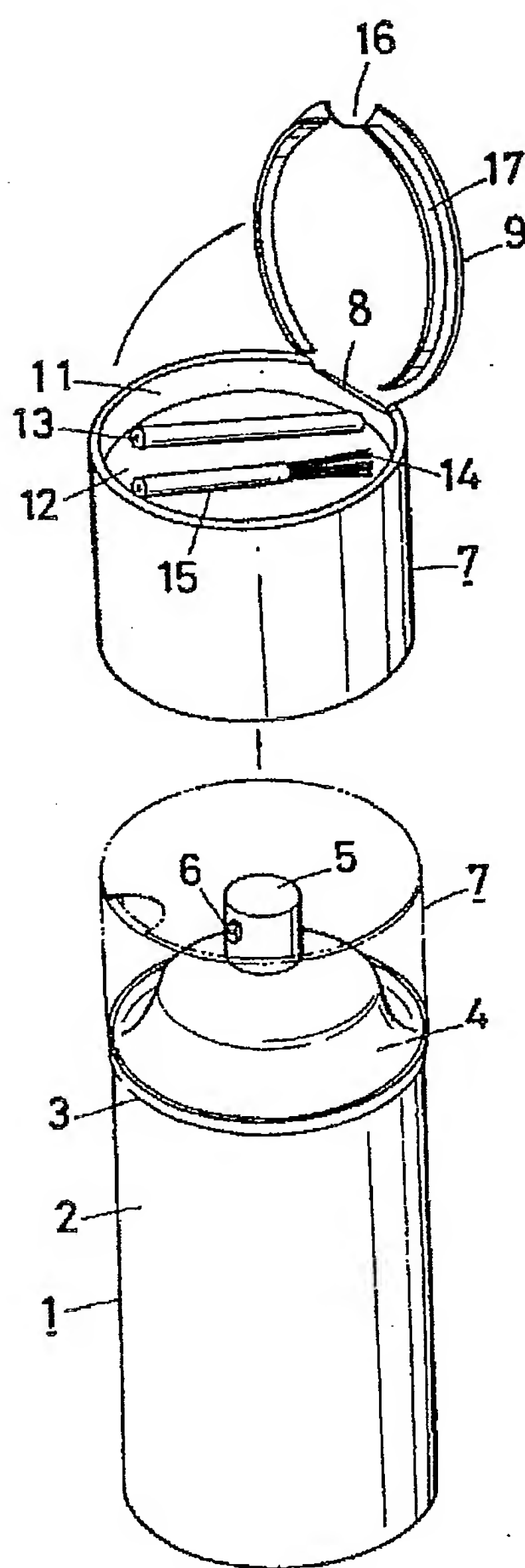
図面は本考案の一実施例を示す斜視図である。

1 ……エアゾール容器

7 ……キャップ本体

9 ……蓋 体

11 ……収納部



清水 修



555

実用58-2129952